

つなぎ つながり ついでいこう あたたかいやさしさ 伝わるように

正覚寺だより

第73号

令和5年
10月1日



『正覚寺だより』をお手にとっていただきありがとうございます。

3月30日（木）慶讃法要団体参拝

今号は地獄の話がいっぱいの内容になっております。

地獄や極楽はほんまにあるのかな。

実際に見た人がいるわけでもないやろうに、^{こま}細かい^{びょうしや}描写やなあ。

でも、よくよく考えてみました。

ほんまの^{せいぎ}正義、ほんまの^{りょうしん}良心、ほんまの自由…

誰にでも通用するほんまもの…。私、見たことあるんやろうか。

私の思ってる「ほんま」は、私にしか通用しない「ほんま」かもしれません。

その私の心に、阿弥陀さまがいてくださる。極楽浄土がある。

苦しむ悲しむ私のための、やさしくて、あたたかい「ほんま」の世界。

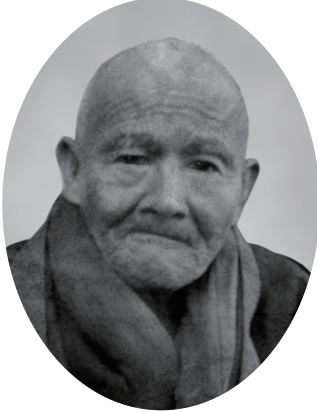
皆さまも、お寺と一緒に「ほんま」探しをしませんか。



武田時子様

しゅみぞうひ 須弥象碑が私たちに伝えること

あさか
阿坂墓地にある須弥象碑は正覚寺の4代前の住職 橘堂流情が建てました。須弥象碑が私たちに伝えることとは。4月9日、永代経法要でのご法話で、浅田恵真和上がお話くださいました。



4代前の住職 橘堂流情



阿坂墓地の須弥象碑



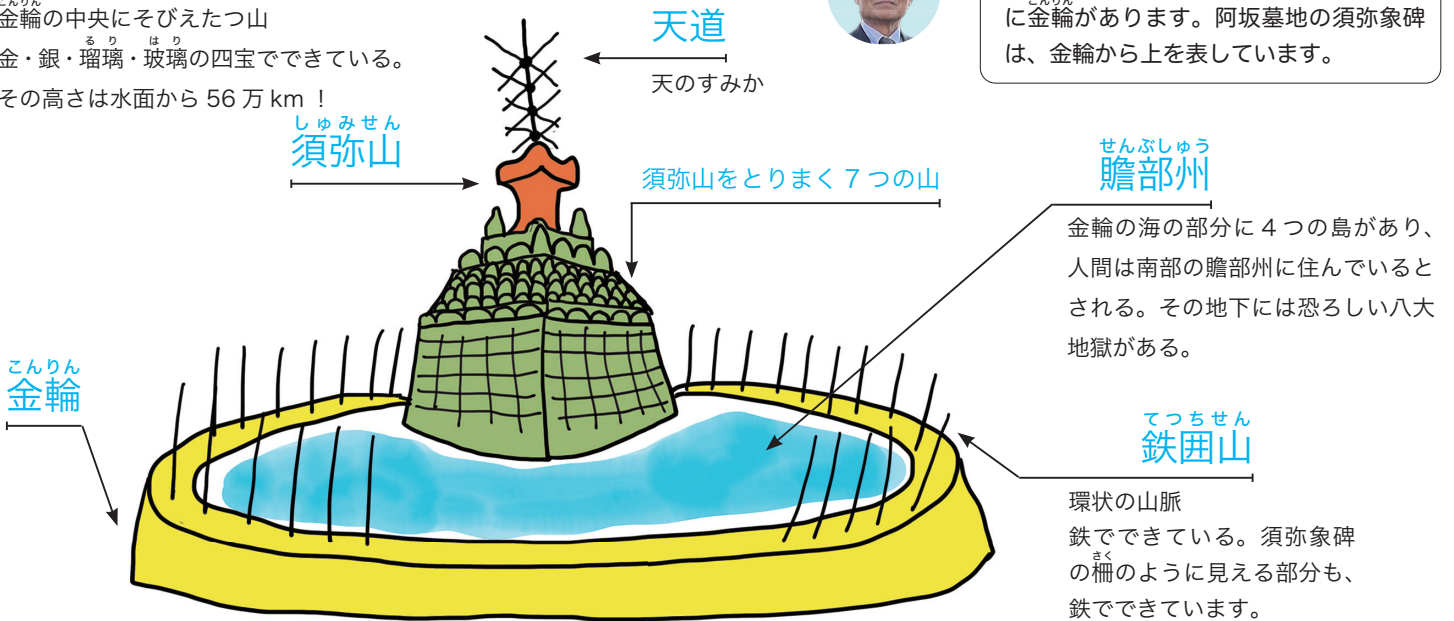
浅田恵心和上

仏教には、古代インドから伝わる独特の宇宙観があります。宇宙空間（虚空）のなかに、須弥山という途方もなく大きな山を中心とした世界が浮かんでいます。その世界には、私たち人間が住む世界だけでなく、地下には地獄が、地の上には帝釈天や梵天などの「天」が住む天道があります。江戸末期に仏教の世界観を守るために、各地で掛け軸や模型、石像などが作られました。橘堂流情も、掛け軸、模型、石像を作り、解説本を出版しました。



宇宙空間のなかに、巨大な風輪が浮かんでいて、その上に水輪が、さらにその上に金輪があります。阿坂墓地の須弥象碑は、金輪から上を表しています。

こんりん
金輪の中央にそびえたつ山
金・銀・瑠璃・玻璃の四宝でできている。
その高さは水面から 56 万 km !



金輪の海の部分に4つの島があり、人間は南部の膽部州に住んでいるとされる。その地下には恐ろしい八大地獄がある。

環状の山脈
鉄でできている。須弥象碑の柵のように見える部分も、鉄でできています。



須弥山とはインドの言葉「スメール」の音訳です。意識は「妙高」。長野県と新潟県の県境にある妙高山は須弥山を意味するものでしょう。

こんりんざい
金輪際（こんりんざい）は、金輪とその下の水輪の境目のことで、「もう金輪際いたしません」というような表現に使われます。つまり、「金輪際」は「真底」「徹底的」を意味し、金輪の上に住む私たちにとっては、金輪際が真の底というわけなのです。

とても地獄は一定すみかぞかし

もし、念仏以外の難しい行を励んでいれば仏になれたのに、念仏したせいで地獄に堕ちたというのなら、「騙された！」という後悔もあるだろう。

でも、わたしは比叡山でどんな行を、どう励んでも、みな中途半端にしかできなかった。つまり、わたしには、どのみち、地獄以外に住み家はなかったのだ。

親鸞聖人の言葉 唯円著『歎異抄』

地獄はこんなところだ！
これはほんの一例だ！

とうかつ 等活地獄

地獄は人が住む瞻部州のずっと下、地中深くに存在します。等活地獄は生き物を殺したことがある人が堕ちます。八大地獄の中で、苦しみは最も軽いとされます。



罪人が鉄の爪で互につき合い、裂き合う



釜ゆでにされる



まな板に乗せられて切り刻まれる



白骨化しても、地獄で働く鬼の力でまた赤ちゃんから地獄のやり直し

←鬼の呪文
「活活活！」



仏さまのみ教えに出遇ったとき、私のすがたが明らかになります。他のいのちをいただくことでしか生きることができない、自己中心の心から離れられない、そして、どのような修行も満足にできないのが私でありました。

私は、自分の力で仏になるための手段は一切断たれた、地獄しか行くところがない身なのです。親鸞聖人は、この自覚に立って、阿弥陀さまの願いをありがたいと受け取られたのです。

阿弥陀さまは、「すべての人を必ず救う」と願われ、私を智慧と慈悲のひかりで照らしてくださいませ。それによって、私は、今を生きる喜びを味わい、生きる方向とよりどころを与えられ、苦悩を乗り越える力をも与えられるのです。



稲益ヨシ子様

阿弥陀さまにすべておまかせして
極楽に往生させていただきましょう



地獄の世界、阿弥陀さまの世界を「ほんまかいな？」と思って聞くのは、値打ちがありません。

みなさんは言うんです。「地獄はほんまにあったら困る」「極楽はあってもらわんと困る」(笑)

「私は悟っていないから、地獄も極楽も見えないけれど、悟った目で見れば、地獄も極楽もあるよ」と教えてもらうのがお経さんです。悟りの道に導いてくださるのが阿弥陀さまの世界です。学問的・教育的ではなく、「この私が救われる道なのだ」ととらえてください。

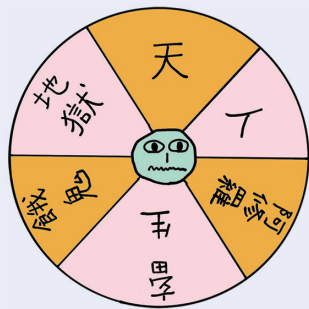
橘堂流情さんは、明治のはじめ、須弥山の模型をかついで、東京まで布教に行ったそうです。「仏さまの世界を、疑いの目を持たずに、そのまんまお聞きして、阿弥陀さまにすべておまかせして、極楽に往生させていただきましょう」と説いてまわられたのでしょ。

ろくどうりんね 六道輪廻とは？



人は死んだらどうなるのでしょうか。はるか昔から、人間だけがこの問いを持ち、答えを探し続けています。その結果、宗教やさまざまな文化が誕生しました。仏教では「死」をどう考えるのでしょうか。お釈迦さまが生まれた古代インドでは、人間は生まれ変わり死に変わりし続けると考えられていました。それが、「輪廻（輪廻転生）」です。私たちが「生き地獄だ」などと日常で使う言葉のルーツがここにあります。仏教もこの考えをもとにうまれました。詳しく学んでみましょう。

六道とは



僕は地獄で働く鬼！
死の後、生まれ変わる世界は6つ！「地獄」「餓鬼」「畜生」「阿修羅」「人」「天」どこになるかは、生きていた時の行いによるんだ。



6つの世界を、最も苦しい世界からひとつずつ紹介しよう。

じごく 地獄道 ひたすら苦しい最悪の世界

前ページで紹介した等活地獄の他にもたくさんの地獄が！

溶かした銅を口に



きょうかん 叫喚地獄

お酒を飲んだり飲ませたりした人

くり抜かれた目は再生するが、またくり抜かれる



だいきょうかん 大叫喚地獄

ウソをついたことがある人

炎の中で他の地獄の1000倍の辛い責め苦を受ける。それが無限に続く。



あび 阿鼻地獄

父母やお坊さんを殺したり、仏や教団を破壊した人



あびきょうかん 阿鼻叫喚という言葉があるね。「悲惨な状況に混乱して泣き叫ぶこと」の意味で使われる。地獄の中でも、最も恐ろしい阿鼻地獄と、叫喚地獄を合わせた言葉なのだよ。



怖いよ～

僕、地獄に落ちたくないよ。でも、すでに、何回もウソをついちゃってるんだよね。



平安時代の比叡山の高僧源信は、その著書『往生要集』のなかで、地獄を事細かに説明し、人々に広く知らしめました。その内容を描いた地獄絵も、急速に広まり、恐怖からの救いが当時の人の重要な関心事になったのだね。

がき 餓鬼道 飢えと渇きの世界

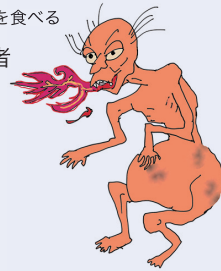
餓鬼道に墮ちる原因

- ・物惜しみや貪欲な行為をした者
- ・自分だけが美食をして他に与えなかった者

どうなるの？

- ・いつも飢えて喉が乾いている
- ・頭を割って自分の脳を食べようとする
- ・昼夜に子を産んで次々と我が子を食べる
- ・墓のお供物を食べる

口から火を吹き出して飛び込んできた蛾を食べる



お釈迦さまの弟子 目連尊者の話を紹介するよ。お盆や盆踊りの起源となったお話だよ。

目連尊者のお母さんは、目連尊者のことをとても可愛がり、美味しい食べ物が入ると、他の子には隠すようにして彼に与えていました。お母さんはやがて亡くなりましたが、我が子の可愛さのあまりに「むさぼりの心」がはたらいた報いとして、餓鬼道に墮ちてしまいました。悲しみに暮れた目連尊者はお釈迦さまに相談しました。すると、「8月15日に法要を営み、精一杯のもてなしをし、仏の教えを聞きなさい」と言われました。目連尊者がその通りにすると、お母さんは、たちまち苦しみから救われたのです。この法要がお盆の起源となりました。また、この時、嬉しさのあまり、目連尊者が躍り上がって喜んだことから、盆踊りが始まったと言われています。



母が餓鬼道に墮ちた原因は自分だと気づいた目連尊者は、どんなに苦しかったことでしょう。このお話は、母を救い、自分も救われる道は、彼自身が仏さまの教えを聞き、正しい道を歩むことなのだと教えてくれているのでしょうか。

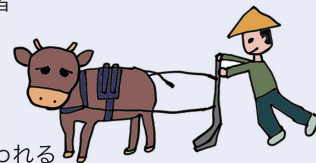
ちくしょう 畜生道 鳥、獣、虫の世界

畜生道に墮ちる原因

- ・罪を恥じず償いを行わなかった者
- ・愚かで恩を知らない者

どうなるの？

- ・弱肉強食にさらされる
- ・大蛇となって小さなムカデに喰われる
- ・鹿となって狩人に追われる
- ・牛馬となって農耕に使われる



殺されたり、人間にこき使われたりする恐怖にさらされるんだね。

あしゅら 阿修羅道 戦いに明け暮れる世界

阿修羅道に墮ちる原因

・良い運を授かって幸福にもかかわらず、悪い行いをした者

どうなるの？

- ・常に天（天道の住人）に攻撃され、1日に3度傷つけられる。
- ・右の絵の阿修羅は、3つの顔、4本の腕を持つ。空中で白い象に乗った帝釈天と戦い、大敗してしまう。



激しい戦いや争いの行われている場所を「修羅場」と言うね。それは、阿修羅と帝釈天との戦いから転じてきた言葉だよ。



阿修羅は帝釈天との戦いに敗れたあと、お釈迦さまの説法を聞いて、慈悲の心に目覚めました。そして、帝釈天の部下となりお釈迦さまを守護



する神になったと説かれています。興福寺の阿修羅像をご覧になったことがありますか。物語を知ると、お顔の表情も深く味わえますね。

人道 私たちの世界

私たちの苦しみ

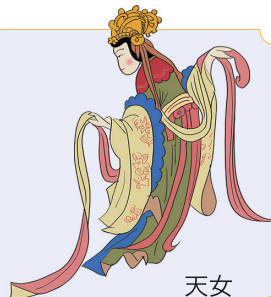
- ・生老病死…生まれ、老い、病にかかり、死ぬ苦しみ
- ・愛別離苦…愛するものと別れ離れる苦しみ
- ・怨憎会苦…怨み憎む者と会わなければならない苦しみ
- ・求不得苦…求めても得られない苦しみ
- ・五蘊盛苦…思うようにならない心身から生じる苦しみ



お釈迦さまは、「人生は苦なり」と言われました。それは、悲観主義的なのではなく、人生をありのままに見つめられた結果なのです。

天道 天人の世界。六道のなかで最高！

- ・苦悩が少なく快樂の場
- ・須弥山の頂上から上 56 万 km から 840 万 km のところに住む。
(須弥山は 2 ページをご覧ください)
- ・寿命は短くて 500 年、長くて 4000 年！



天女



すごく長い寿命で、受ける快樂も極まりない天なのですが、やはり命の終わりはあるのです。寿命が長い分、その苦悩は人間以上です。そして、次の生では、阿鼻地獄に落ちることだってあるのです。

六道の世界はすべて、苦しみ悲しみから完全に逃れることはできない世界なのです。

六道の世界から抜け出す！

「人間」の世界であろうと、「天」の世界であろうと、すべての世界が、それ相応の苦しみのある世界であり、輪廻する限り苦しみは続く…

だから、六道の世界から抜け出そう！



六道の世界から抜け出すことを「解脱」と言います。迷いの世界から抜け出すのですから、「さととり」と似た意味でもあります。



お釈迦さまはインドのブッダガヤの菩提樹の木の下でさとりを開かれたよね。



そして、お釈迦さまは、六道の世界から抜け出す方法を私たちに伝えてくれたんだね。

そして、あこがれの浄土に生まれる！

浄土に生まれるとは

自分を苦しめる欲望や怒りや愚かさによって汚されていない心を持ち、すべての苦しみから解放されて仏となること。



阿弥陀さまのおられるところを極楽浄土といっています。煩惱に汚れたみにくいものがない世界。清らかな世界なのだよ。



極楽浄土に生まれる方法はあるの？



仏教ではさまざまな方法が説かれていますが、浄土真宗のみ教えでは、阿弥陀さまの願いを信じて念仏するものは、阿弥陀さまのはたらきによって、命終わった後、浄土へと生まれ、さとりを開かせていただきます。



自分で何もしなくていいんだね～



親鸞聖人は阿弥陀さまのはたらきをあてにして何もしなかったのではありません。浄土に生まれる道を阿弥陀さまにおまかせしていたからこそ、どんな苦難にあっても乗り越え、仏さまのめぐみを喜び、力強く、積極的に生き抜かれたのですよ。

参考文献

- ・『高校生からの仏教入門』小池秀章
- ・『ねえ、お坊さん教えてよ 死んだらどうなるの?』岡崎秀麿 富島信海
- ・『いつでも歎異抄』井上見淳
- ・『源信 地獄極楽への扉』奈良国立博物館
- ・『地獄絵ワンダーランド』龍谷ミュージアム
- ・『往生要集』入門 阿満利磨
- ・『須弥山と極楽 仏教の宇宙観』定方晟



そうだ お寺へ行こう



浄土真宗の門信徒にとって最も大切な行事

ご法話

ほうおんこう 報恩講

[日時] 10月15日(日) 午後2時と7時

[法話] 浄土真宗のみ教え

[講師] 若林真人師 (浄土真宗本願寺派布教使)



私たちがお念仏のみ教えに出遇い、生きるよりどころを頂くことができたのは、阿弥陀さま、親鸞聖人をはじめ、先立っていかれた方々のお導きによるものです。そのご恩にお礼を申し上げる法要を、親鸞聖人のご命日をご縁に行うのが、報恩講です。どなたさまもどうぞお参りください。

家庭での報恩講をまとめて本堂でおつとめする寄せ報恩講

年に1回 お楽しみ

ほうおんこう 寄せ報恩講(婦人会)

[日時] 10月22日(日) 午後2時

[内容] 腕輪念珠づくり・お楽しみ抽選会

[参加費] 1000円
(お供え代、材料費込み。終了後、お供えはお下がりとしてお持ち帰りいただきます。)

どなたでもご参加ください。
ご希望の方は10月15日までに申し込みください。

聞いてほしいこと、聞きたいこと、いっぱい話しましょ

お茶& おしゃべり

正覚寺法座&さろん

[日時] 毎月15日 午後2時

[おつとめ] 正信偈・法話・さろん
参加者みなで、お茶を飲みながら話をします。

[持ち物] お念珠
毎月、親鸞聖人のご命日に合わせておつとめをしています。遠方の方、若い方、高齢の方、初めての方、久しぶりの方、いつもの方、その時だけの参加者でさまざまな話ができることが「さろん」の醍醐味です。

80分間ゆっくり呼吸しながら体をのばします

リラックス

お寺ヨガ

[日時] 毎月第1月曜日 13:00~14:20
毎月第3月曜日 10:00~11:20

[参加費] 500円

[講師] 不死川麻子先生

[申込] 予約制です
電話かラインで申し込みください。
予約はヨガ実施日の1ヶ月前の13時から受付



正覚寺のイベント・法要の情報は ライン公式で配信します！



LINEの「友だち追加」画面から、「QRコード」を選択。
左のQRコードを読み込んで追加し、お友だち完了です！
名前を送信してくださいとありがたいです。

ミニミニ法話、博物館やテレビの番組の情報なども配信します。
ご法事や月参りの依頼もできます。
ご質問やご相談もお気軽にどうぞ。

じょうどうえ 成道会

12月8日(金)
午後2時

じょやえ 除夜会

12月31日(日)
午後10時

がんたんえ 元旦会

1月
1日(月)~3日(水)
午前8時・午後4時

しょうぎ ご正忌(親鸞聖人ご命日)法要

1月14日(日) 午前8時 午後4時
15日(月) 午前8時 午後2時
16日(火) 午前8時 午後4時
15日午後2時はぜんざいの接待予定

現代版寺子屋 スクール・ナーランダ

2月中旬

永代経法要

4月14日(日)

正覚寺 れぽーと

話しあい 聞きあい 学びあい
人のつながりを感じる場所

親鸞聖人がいらっしゃったから、私は今、安心してこの人生を生きることができる。そのことを深く味わい、喜ぶことができる参拝となりました。

団体参拝に行っていました
2023年3月30日(木)



お釈迦さまのお誕生日をお祝い

花まつり お寺マルシェ

2023年4月16日(日)

お寺マルシェの売上金と募金は、本願寺主催のダーナ活動に献金しました。ご協力ありがとうございました。
ダーナ活動支援金
22251円

→おもちゃとお菓子を釣っています！



→仏さまのお話とピアノ演奏を聞きました。



誕生仏に甘茶あまぢやをかけ、甘茶の味見もしました。お砂糖を入れていないのに、甘い味があるので、みんな驚きました。

正覚寺が 来年2月！ 「現代版寺子屋 スクール・ナーランダ」開催寺院に！

浄土真宗本願寺派は、仏教・浄土真宗と若者との新たな関係づくりをめざし、現代版寺子屋「スクール・ナーランダ」を各地で実施しています。今年度は新たな取り組みとして、別院などの大きな場所ではなく、一般寺院で開催することとなりました。その募集に応募したところ、滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・兵庫教区の一一般寺院の中から、正覚寺が選ばれました！

スクール・ナーランダって？

「今と未来を生きる智慧ちえ」を学ぶ現代版寺子屋です。
2024年2月に1日限りのイベントを行います。正覚寺の歴史に残る大きなイベントになるでしょう！
詳細は次号の正覚寺だよりで。

どんなことをする？

これまでに人類が積み重ねてきた叡智えいちはたくさんあります。科学や芸術、哲学、そして、2500年続く仏教。それらが、今と未来を生きるための「心の軸くわ」を形づくるヒントになるのではないかと考え、積極的に学び、体験できる場を作ります。

お手伝いしてくださる人募集

1度しかないイベントだから、みんなで盛り上げませんか。年齢は問いません。お寺に関わるのは、お葬式やご法事の時だけなんてもったいない！
仏教やお寺を通して感じ、味わうことは、人生をゆたかにしてくれます。

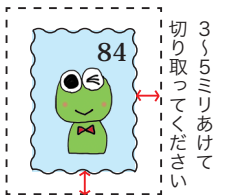




正覚寺 NEWS
正覚寺から皆様へお知らせです

使用済み切手募集

いつもご協力ありがとうございます。集まった切手は本願寺仏教婦人会が推進するダーナ活動を通じてユニセフに寄付いたします。



納骨壇の申し込み

故人の家族や親族に代わり、永代にわたってご遺骨をお預かりいたします



お釈迦さまのご遺骨と阿彌陀さまのそばに
正覚寺にはスリランカから奉迎したお釈迦さまのご遺骨である仏舍利がおさめられています。私たちを仏さまの世界に出遇わせてくださったご先祖方を、より一層身近に感じていただけたらと思います。



正覚寺オリジナルデザイン
金色の扉に、副住職が菩提樹の葉をデザインしました。菩提樹は、お釈迦さまのさとりという心やすらかな世界をあらわしています。

本堂の後ろ側に48区画
サイズ：横幅350mm 奥行260mm 高さ275mm

場所の選択は先着順です

**ご予約のある方は
お早めにご相談ください**

永代合同墓も建設予定

**お墓の継承が困難に
なっても安心です**



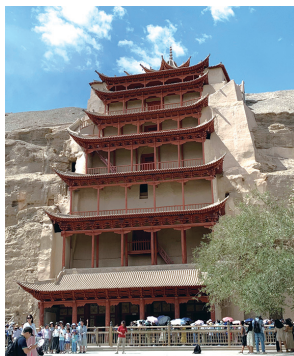
副住職の 敦煌紀行

とんこう

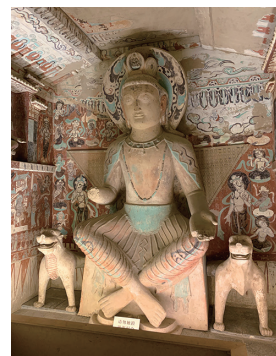


8月20日～27日の1週間、副住職が科学研究助成金によって、世界遺産・敦煌莫高窟の調査に行ってきました。中国は今、キャッシュレス化など急激な社会変化を迎えています。そんな時代だからこそ“変わらない”仏さまの教えを見つめなおしたいものです。

中国の西部、甘粛省に敦煌というオアシスがあります。はるか昔、シルクロードの玄関口として栄えたこの町を、ラクダに乗った商人の団が通ったのです。仏教もここから中国に伝えられました。その証に、巨大な断崖絶壁に穴を掘って作られたお寺が数多く残っています。その一つ、世界遺産・莫高窟には、長さ2キロの崖に約700のお寺の跡が残っています。



敦煌莫高窟



弥勒菩薩



阿彌陀さまと極楽浄土の世界



莫高窟の中は、奈良の大仏より大きな大仏が安置されています！



背中で琵琶を弾く天人

莫高窟の中に入るとそこは沙漠とは全く異なる世界が広がっています。迦陵頻伽や天女が空を舞い、仏さまや菩薩さまがエキゾチックな色彩で描かれています。よくみると琵琶を背中で弾いている天人もいます。今回の調査で浄土真宗の源流を目の当たりにする思いがしました。

浄土真宗本願寺派 慧明山



正覚寺

〒591-8003
大阪府堺市北区船場町 1-14-23
072-251-4350
contact@sakai-shogakuji.net



ホームページ



SENDU_SHOGAKUJI
Instagram



ライン公式